

# なはモビリティウィーク & カーフリーデー

## 2010 なはモビリティウィーク&カーフリーデー 実施報告書

なはモビリティウィーク&カーフリーデー実行委員会

### 今年のTOPIC

- カーフリー宣言者の目標1000人(キャンペーンの充実)
- 次世代への「クルマに頼らない暮らし」社会啓発(ポスターコンクール)
- 歩きたくなるなはのみちプロジェクト
- 交通基本計画策定の情報発信(紹介・パネル展)

那覇市では、本市の基本構想を示す第4次那覇市総合計画を策定し、そのなかで「誰もが移動しやすいまちをつくる」を施策として掲げています。その取り組みの柱として、モビリティウィーク&カーフリーデーを実施しており、今年で4回目となります。

那覇市のモビリティウィーク&カーフリーデーは年々その取り組みを拡大してはいるものの、まだまだ市民への認知度は低いため、また昨年度、市のこれから先20年の交通まちづくりの道しるべとなる「那覇市交通基本計画」、その前半期5年から10年の具体的な取組みを示す「那覇市総合交通戦略」を策定したことから、モビリティウィーク&カーフリーデーのより一層の周知と、イベントの充実と拡大を図るため、上記の「今年のTOPIC」を目標に立て実施しました。

< 目 次 >

カーフリー宣言者の目標1000人(キャンペーンの充実)-----	1
1) モビリティウィーク&カーフリーデーを知ってもらうために行ったこと-----	1
2) カーフリー宣言者1000名達成のために-----	2
3) 結果-----	2
次世代への「クルマに頼らない暮らし」社会啓発(ポスターコンクール)-----	3
1) 応募要領(抜粋)等-----	3
2) 募集・審査結果-----	3
3) 実施後の考察-----	3
歩きたくなるなはのみちプロジェクト-----	4
1) 日傘について-----	5
2) パレードについて-----	5
3) 仮想緑陰について-----	6
4) 実施後の考察-----	6
交通基本計画策定の情報発信(紹介・パネル展)-----	7
1) 「車中心のまち」から「人中心のまち」へ-----	7
その他-----	8
1) サクラザカマルシェ同日開催-----	8
2) セグウェイ試乗会-----	8
その他の継続的な取り組み-----	10
1) なはまちなかウォーク-----	10
2) 自転車でまちめぐり-----	10
3) バスの使い方アドバイスコーナー-----	11
4) その他-----	11
CO <sub>2</sub> の削減効果-----	12
1) CO <sub>2</sub> 削減効果の算出方法-----	12
2) CO <sub>2</sub> 削減効果の算出-----	13
3) CO <sub>2</sub> 削減効果のイメージ-----	13
オリジナルTシャツの作成について-----	14
終わりに-----	15

## ① カーフリー宣言者の目標1000人（キャンペーンの充実）

モビリティウィーク（9月16日～22日）の1週間、クルマに頼りすぎない暮らしを実践することをインターネットや宣言書への署名により宣言することで、バス、モノレール、自転車、徒歩での移動を心掛けてもらう「カーフリー宣言」、昨年は470名の宣言がありましたが、一般市民にこのイベントが周知されているとは言い難いため、「モビリティウィーク&カーフリーデー」を知ってもらうことを念頭に、カーフリー宣言者1000名を目標に挙げました。（募集期間9/1～22）

### 1) 「モビリティウィーク&カーフリーデー」を知ってもらうために行ったこと。

〇いま沖縄で人気のヒーロー（琉神マブヤー）を呼んでのオープニングイベント（9/12日）

モビリティウィーク&カーフリーデーを知ってもらうため、沖縄で大人から子供まで人気のあるご当地ヒーロー「琉神マブヤー」をオープニングイベントに呼び、市長と一緒にカーフリー宣言をしてもらいました。



写真（オープニングイベントの様子）



写真（市長と琉神マブヤーによるカーフリー宣言）

事前に作成し配布したポスター300枚やチラシ20,000枚、市内1万世帯に毎月配布される本市の広報誌「那覇市民の友」に琉神マブヤーを掲載したことで、当日は多くの集客があり、新聞報道もあったことから、多くの方にモビリティウィーク&カーフリーデーを知ってもらうことができました。また当日の来客者から多数のカーフリー宣言を得ることができました。



写真（新聞報道）



写真（市長はセグウェイで登場）

## 2) カーフリー宣言者1000名達成のために

### ○県内の経済団体への働きかけ

通勤や商用、運送など、日々の経済活動に伴い、多くの車が利用されることから、経済界への働きかけが重要と考え、県内を代表する経済団体へ「カーフリー宣言」の募集を呼びかけました。またこれをきっかけにイベントへの協力（後述の歩きたくなるなはのみちプロジェクト）も得ることができ、一定の成果を得ることができました。一方で、例年同様、国、県といった官公庁への働きかけも行っています。

## 3) 結果

○今年のカーフリー宣言者数は1,072名となり、目標を達成することができました。

昨年が470名だったことを考慮すると、約2倍の周知効果があったこととなります。また宣言者のうち約30%がクルマを主として使用しており、モビリティウィーク期間中は公共交通や徒歩での移動に転換したと考えられます。モビリティウィーク&カーフリーデーを知る機会を増やしたことが、その趣旨の理解につながり、「カーフリー宣言」という行動に繋がったと思います。今後はカーフリー宣言者でどれぐらいの環境負荷を削減できたかなど、宣言者に情報発信することで、イベント期間以後も引き続き「クルマに頼り過ぎない生活」に取り組んでもらえるよう働きかけていきたいと思っています。カーフリー宣言の募集期間の拡大や募集方法など、次回以降も工夫することで、このイベントを知ってもらうことから取り組みを拡大させていきたいと思っています。



写真（カーフリー宣言受付の様子）



写真（インターネットでの受付画面）

## ② 次世代への「クルマに頼らない暮らし」社会啓発（ポスターコンクール）

今回、初の試みとして、市内の小学校に通う小学生 4～6 年生を対象に「クルマに頼らないなはのまち」と題してポスターを募集しました。10 年後にはクルマを持つ世代となる彼らに、幼少期より「交通と環境について」考えてもらうこと、都市交通問題に対する意識付けを行うことが重要と考え実施しました。そして9/12のオープニングイベントでは表彰式を行いました。

応募作品はモノレール駅等に掲示し、子供の取組みをもとに、親や家族も一緒に「クルマに頼らないなはのまち」＝「クルマに頼りすぎない生活」を考えるきっかけとしました。

### 1) 応募要領（抜粋）等

テーマ 「クルマに頼らないなはのまち」

応募資格 那覇市内の小学校へ通学している小学4年生～6年生

応募規定 画用紙 四つ切り 画材および色数は自由

応募方法 各小学校へ提出（事務局が回収）

表彰 最優秀賞…1名 優秀賞…2名 優良賞…3名 入選…10名

参加賞として応募者全員に「ゆいレール1日乗車券（子供用）」を授与

### 2) 募集・審査結果

○応募作品の審査はポスターの技術的な要素（芸術性や技術）以上に、テーマ「クルマに頼らないなはのまち」がどれくらい伝わるかを主眼において実行委員で審査を行いました。



写真（表彰式の様子）



写真（応募作品：最優秀賞）



写真（掲示した作品の例）



写真（イベント後モノレール駅に掲示）

### 3) 実施後の考察

○この取り組みは小学生にとって交通と環境について考える良いきっかけとなりました。とくに表彰式はオープニングイベントのなかで大々的に行ったことから、小学生にとって今後の励みになったとのことでした。応募作品は小学生らしい自由で楽しい作品が多く、今後は次年度のポスターやチラシへの使用など活用方法を検討していきます。入賞作品についてはモノレール駅の電照掲示板に掲示し、この取り組みをアピールしていく予定です。

### ③ 歩きたくなるなはのみちプロジェクト

那覇の街は、亜熱帯気候に属し、夏は気温30度を越える蒸し暑い日が続きます。特に南国特有の日差しは強く、歩くことが困難な環境のなか、歩きやすい環境作りが求められています。

そこで9/22のカーフリーデーは平日であることも考慮し、通勤者を対象に「歩きたくなるなはのみちプロジェクト」と題し、日傘の無料貸出しを中心としたイベントを行いました。

日傘は直射日光を遮るだけでなく、有害な紫外線から身を守り、特に体の表面温度を木陰の温度に近い温度まで下げるなど、より快適に歩ける環境を創り出します。また歩く機会を増やすことは健康増進にもつながり、環境にやさしく、健康にも良いという二重の効果が期待できます。

そこで、普段あまり日傘を差す機会のない方々に、日傘を体験してもらい、その効果を実感してもらうことで、歩くきっかけとしてもらうことを目的に日傘の無料貸出しを行いました。

また街路樹を育てること、緑化を推進することの重要性を知ってもらうため、仮想緑陰としてテントを設置し、信号待ちなどでも快適に過ごせるよう工夫しました。



図 (歩きたくなるなはのみち平面図)

## 1) 日傘について

○9月22日、午前7時45分から、ゆいレールおもろまち駅付近において日傘の無料貸出を行いました。無料貸出用の日傘を80本用意し、おもろまち駅を利用する通勤者を対象に市長、那覇キャンペーンレディ、沖縄日傘愛好会の方たちから日傘の手渡しを行いました。女性は日傘を持っている方が多いので、特に男性を中心に手渡しを行いました。



写真（イベントの様子）



写真（日傘無料貸出の様子）

○男性用の日傘は高価であることから、おもろまち駅近くの大型店舗の協力で忘れ物の傘で処分の対象となった傘（雨傘を含む）を無償提供してもらい、事務局ではなはモビリティウィーク&カーフリーデーのロゴを入れました。



写真（日傘の写真）



写真（日傘返却場所）

## 2) パレードについて

○ゆいレールおもろまち駅周辺には官公庁や大型店舗が立地していることから、そこに通勤する方たちに「日傘を差して歩くこと」をアピールするため、このイベントの参加者（那覇市長、那覇キャンペーンレディ、沖縄日傘愛好会、なはモビリティウィーク&カーフリーデー実行委員会と事務局、おもろまち駅周辺に出勤する方）でパレードを行い、広く市民にアピールしました。その様子はテレビでも報道されました。



写真（日傘パレードの様子）



写真（テレビ報道）

### 3) 仮想緑陰について

○パレードのルート上に緑陰をイメージしたテント（ヤシの葉を屋根材として使用）を設置することにより、まちなかの木々の緑陰の大切さを実感してもらい、またそのなかでカーフリー宣言の募集や街路樹の写真展示などを行いました。テントの屋根に使用したヤシの葉は、市内の公園から樹木の管理剪定の際に発生した葉を活用しています。またテントは土のうの代わりにプランターを重りとして利用しています。市内の造園業者で構成する団体の協力で設置してもらいました。



写真（仮想緑陰テントの様子）



写真（宣言の募集、日傘の効果を展示）

### 4) 実施後の考察

○日傘を使用することで歩きやすくなることを実感してもらえました。男性は日傘をさすことに抵抗があるようでしたが、これを機会に日傘を利用してみたいという声が多数聞かれました。イベント後も一人でも多くの方に日傘を利用してもらえるよう、沖縄都市モノレール（株）に今回準備した日傘を提供し、ゆいレールおもろまち駅で日傘の無料貸出を継続して行っています。

市長のコメントのなかで「昔の沖縄の人には日傘をさす文化があった」とのことでした。「車社会の進展のなかで、その文化は忘れられていったが、このイベントを機会に、男性も日傘を持つことが恒常化し、日傘文化の再発信になることを期待する」とのことでした。日傘を持って歩く人が増え、まちに賑わいをもたらし、地域の活性化に繋がるよう今後も働きかけていきたいと思っています。



#### ④ 交通基本計画策定の情報発信（紹介・パネル展）

那覇市では第4次那覇市総合計画のなかで「誰でも移動しやすいまちをつくる」を施策として掲げており、その実現に向け、平成21年度には20年後の那覇市の交通まちづくりの基本姿勢を示す那覇市交通基本計画を策定し、なかでも5年から10年内に実現するべき取り組みを那覇市総合交通戦略として策定しました。

##### 1) 「車中心のまち」から「人中心のまち」へ

○交通基本計画は「車中心のまち」から「人中心のまち」の交通まちづくりが主題とされており、その施策のなかで市民の意識改革のための重要な取り組みとしてカーフリーデーに取り組むとしています。モビリティウィーク&カーフリーデーは那覇市の将来の交通まちづくりの実現に不可欠な取り組みです。那覇市の交通まちづくりの将来をこのイベントを機会に一人でも多くの市民に知っていただき、交通まちづくり、「人中心のまち」への意識を共有するため、イベント会場においてパネル展示を行いました。



写真（イベント会場パネル展示の様子）



図（那覇市交通基本計画）表紙



図（那覇市交通基本計画）抜粋

## ⑤ その他

### 1) サクラザカマルシェ同日開催

○サクラザカマルシェは、まちなかの賑わいの創出と地域の活性化などを旨し、那覇市の中心市街地の文化と情報の発信拠点として注目されている映画館「桜坂劇場」の呼びかけで行われる青空市です。毎回、手作りの雑貨店や人気の飲食店が多く出店しており、若者を中心に注目を集める地域主体のイベントです。

9/19、20の2日間、なはモビリティウィーク&カーフリーデーのメイン会場である「てんぶす那覇前広場」に隣接する「希望ヶ丘公園」において、「まちに人中心の賑わいをもたらすイベント」として、同時開催していただきました。両日ともサクラザカマルシェを訪れる人、なはモビリティウィーク&カーフリーデーのイベントを訪れる人、さらに、お互いの相乗効果で沢山の来場者がありました。また、サクラザカマルシェの出店者のほとんどがカーフリー宣言をしてくれたり、自身のブログなどで、なはモビリティウィーク&カーフリーデーを紹介してくれるなどの協力も得られました。

今回、なはモビリティウィーク&カーフリーデーに併せて、街に賑わいを創出しようという地域主体のイベントを同時に開催できたことや、お互いの相乗効果により多くの来場者があったことは、今後のなはモビリティウィーク&カーフリーデーの継続と発展にとってたいへん意義のあることでした。



写真（サクラザカマルシェの様子1）



写真（サクラザカマルシェの様子2）

### 2) セグウェイ試乗会

○なはモビリティウィーク&カーフリーデーへの集客を図るため、近未来の交通手段として「電動で環境にやさしく、小スペース、バリアフリー化されているところならどこでも移動できる」と評判の電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」の試乗会を行いました。試乗会は「てんぶす那覇前交通広場」横の国際通りに接続する市道：牧志壺屋西線において国際通りのトランジットモールにあわせて通行止めにし行いました。沖縄では物珍しいこともあり、たくさんの来客がありました。



写真（セグウェイ試乗会の様子）

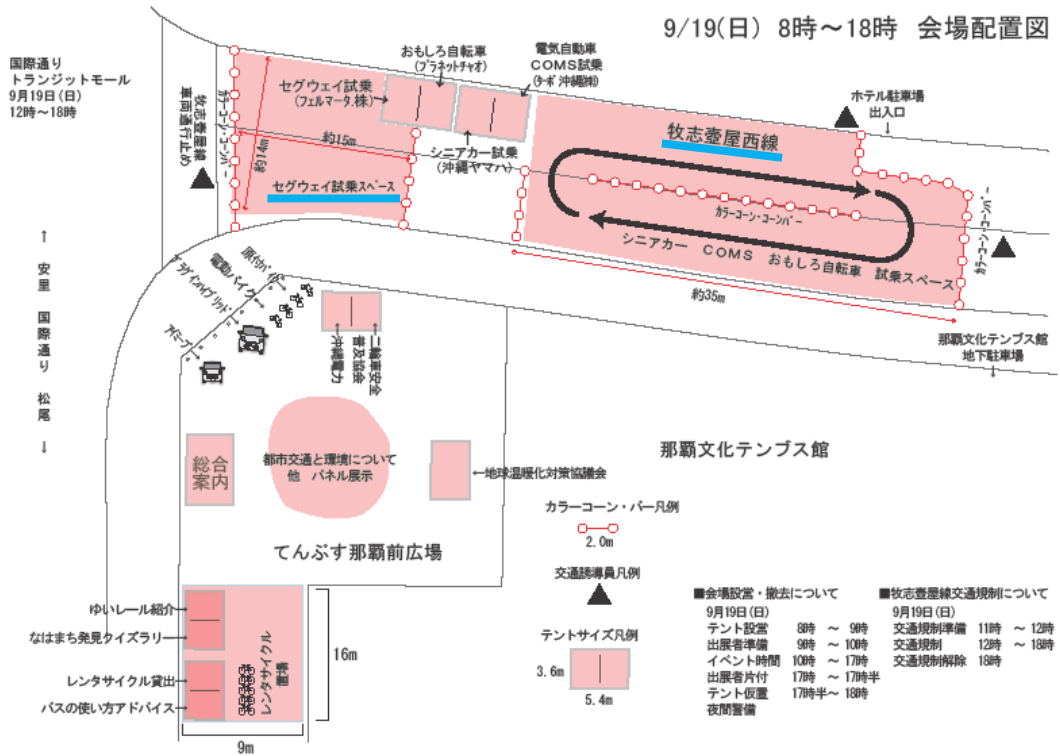


図 (会場配置図)

○今後、よりエコな乗り物として注目されている電気自動車や、今年9月に発売になった電動二輪車、高齢化でこれから需要が伸びると予想されるシニアカーの展示、試乗を行いました。



写真 (地球にやさしい乗り物の展示)



写真 (シニアカーの試乗)

## ⑥ その他の継続的な取り組み

### 1) なはまちなかウォーク

○会場を出発地点にやちむん通りや平和通り、公設市場といった中心市街地周辺を那覇観光協会のガイドの案内でまち歩きしました。各班8名程度で11班、80名以上の参加者がありました。



写真（まちなかウォーク集合写真）



写真（まちなかウォークの様子）

平和通りや公設市場、壺屋の狭隘道路など、那覇の中心市街地の歴史、魅力を知ってもらうだけでなく、街の形態によって生活のなかでクルマが絶対に必要なのではないことを認識してもらえたと思います。特に今年は親子連れの参加者が多く、家族で歩いて出掛けることが新鮮と好評でした。

### 2) 自転車でまちめぐり

○那覇市内の見どころを距離別に4コースに分かれてサイクリングしました。とくに最近自転車道が整備されたことや、全国的にも自転車利用が注目されていることから、沖縄県自転車協会の沖縄サイクリングインストラクターに協力いただき、自転車の走行ルールやマナーの指導を受けながらサイクリングしました。



写真（自転車まちめぐり集合写真）



写真（自転車まちめぐりの様子）

### 3) バスの使い方アドバイスコーナー

○「市内のバス路線は複雑でわかりにくい。」「運行間隔もわからないから、時間が読めない」など、バスは便利ではあるが、情報を得るのに多少不便を感じているようです。そこで、会場にバスの使い方アドバイスコーナーを設け、目的地に時間通りに着くためのアドバイス（情報提供）を今年も行いました。



写真（バスの使い方アドバイスコーナー）



写真（バスの使い方アドバイスコーナー）

### 4) その他

○無料レンタサイクルとクイズラリーを今年も実施しました。とくにレンタサイクルは貸出場所を会場だけでなく、那覇の中心市街地周辺4駅にも置くことで、より便利に利用できるようにしました。またクイズラリーは今年も自転車だけでなく、徒歩でもまわれるコースを設定しました。



写真（自転車と徒歩でのクイズラリー）



写真（自転車と徒歩でのクイズラリー）

○那覇市の都市計画課職員で移動手段別競争を行い、その結果を都市交通環境についてのパネル展で展示しました。移動手段別競争とは市内で通勤の集中する久茂地前をゴールに市内のなかでも住宅地とされる3ヶ所から、車、原付、自転車、徒歩、バス、モノレールの各交通手段で、より通勤に有利な交通手段は何かを競争したものです。予想通り原付が便利という結果でしたが、ルートによって自転車やモノレールが次点となるなど、必ずしも車が便利ではなく、その日の天候や用事によって手段を賢く選択することが肝心であるという結果になりました。このパネル展の様子もテレビ報道で取り上げられました。

## ⑦ CO<sub>2</sub>の削減効果

1,072名のカーフリー宣言者のCO<sub>2</sub>削減効果を2008年に実施したカーフリー宣言者のCO<sub>2</sub>削減効果の把握調査をもとに算出しました。

### 1) CO<sub>2</sub>削減効果の算出方法

2008年の調査により、1週間に普段から車を利用する人の平均使用距離は131.9km/人・週です。また、普段から車を利用する人が公共交通に乗り換えることによるCO<sub>2</sub>削減効果は192g-CO<sub>2</sub>/km、バイクへの乗り換えによるCO<sub>2</sub>削減効果は134g-CO<sub>2</sub>/kmと算出されています。普段から車を利用する人が他の手段へ転換する割合は下表のとおりです。

車から他の手段への転換率%	CO <sub>2</sub> 削減効果 g-CO <sub>2</sub> /km	
公共交通へ	41%	192 g-CO <sub>2</sub> /km
自転車・徒歩へ	22%	192 g-CO <sub>2</sub> /km
他車へ便乗	6%	192 g-CO <sub>2</sub> /km
バイクへ	4%	134 g-CO <sub>2</sub> /km
乗り換えなし	27%	0 g-CO <sub>2</sub> /km
計	100%	

$$\begin{aligned} \text{※}192 \text{ (g-CO}_2\text{/km)} &= [\text{ガソリン 1ℓ当りの CO}_2 \text{ の重さ : 2,300 (g-CO}_2\text{/ℓ)}] \div [\text{車の燃費 : 12 (km/ℓ)}] \\ \text{※}134 \text{ (g-CO}_2\text{/km)} &= \\ &192 \text{ (g-CO}_2\text{/km)} - [\text{ガソリン 1ℓ当りの CO}_2 \text{ の重さ : 2,300 (g-CO}_2\text{/ℓ)}] \div [\text{バイクの燃費 : 40 (km/ℓ)}] \end{aligned}$$

上記条件により、CO<sub>2</sub>削減効果は以下の式で算出されます。

$$\text{車から他の手段への転換による CO}_2 \text{ 削減量 (kg-CO}_2\text{)} = \text{普段から車を主に使うカーフリー宣言者(人)} \times \text{車から他の手段への転換率(\%)} \times \text{CO}_2 \text{ 削減効果 (kg-CO}_2\text{/km)} \times \text{平均使用距離 131.9km/人・週}$$

## 2) CO2削減効果の算出

今年のカーフリー宣言者 1,072 名のうち普段から車を利用する人は 331 名であった。CO2削減効果は上記式から以下のとおりとなりました。

車から他の手段への転換によるCO2削減量 (kg-CO2)	=	普段から車を主に使うカーフリー宣言者 (人)	×	車から他の手段への転換率 (%)	×	CO2削減効果 (kg-CO2/km)	×	平均使用距離 131.9km/人・週
公共交通への転換によるCO2削減量 (kg-CO2)	=	331 (人)	×	41 (%)	×	0.192 (kg-CO2/km)	×	131.9km/人 = 3436.8 (kg-CO2)
自転車・徒歩への転換によるCO2削減量 (kg-CO2)	=	331 (人)	×	22 (%)	×	0.192 (kg-CO2/km)	×	131.9km/人 = 1844.2 (kg-CO2)
他車へ便乗への転換によるCO2削減量 (kg-CO2)	=	331 (人)	×	6 (%)	×	0.192 (kg-CO2/km)	×	131.9km/人 = 503.0 (kg-CO2)
バイクへの転換によるCO2削減量 (kg-CO2)	=	331 (人)	×	4 (%)	×	0.134 (kg-CO2/km)	×	131.9km/人 = 234.0 (kg-CO2)

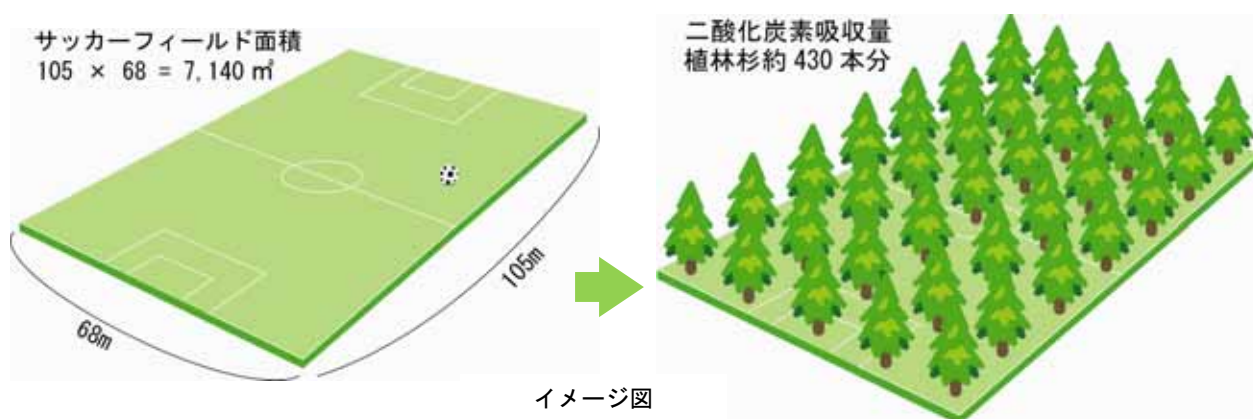
よって「車から他の手段への転換によるCO2削減量 (kg-CO2)」は  
 $= 3436.8 + 1844.2 + 503.0 + 234.0 = 6018.0$  (kg-co2) CO2削減効果があったこととなります。

※ モビリティウィークの1週間で6トンものCO2が削減されたことになる。

## 3) CO2削減効果のイメージ

今年のカーフリー宣言者 1,072 名のうち普段から車を利用する人 331 名が削減したCO2、1週間で6トンをイメージで表現すると…

サッカーフィールド約1面分の杉林が1年間に吸収する二酸化炭素量となります。



樹齢にもよりますが、杉1本が1年間で吸収する二酸化炭素吸収量は0.014トン/年です。  
 また1ヘクタール(10,000 m²)当たりの植込み本数は約575本です。(参考: H21 沖縄本島中南部都市圏総合都市交通協議会、第3回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査)

## ⑧ オリジナルTシャツの作成について

なはモビリティウィーク&カーフリーデーの周知を図るため、都市計画課の職員を中心に有志を募り、オリジナルTシャツの作成を行いました。

デザインはモノレール、バス、自転車、徒歩といった移動手段を選択することが、その生活の歩み（足あと）をたどっていくと、そこから芽が出て環境に良いことを表しています。葉っぱの上の小鳥はその生活が自然にとってやさしいことのシンボルです。イベントの主旨である「クルマに頼り過ぎない生活」を実践することで、都市の環境が良くなることを表現しています。

市の職員掲示板に注文受けの案内を掲載し、購入希望者を募集しました。またイベントに出展するNPOを始め、各団体の方にも購入してもらい、イベントの一体感を創り出しました。

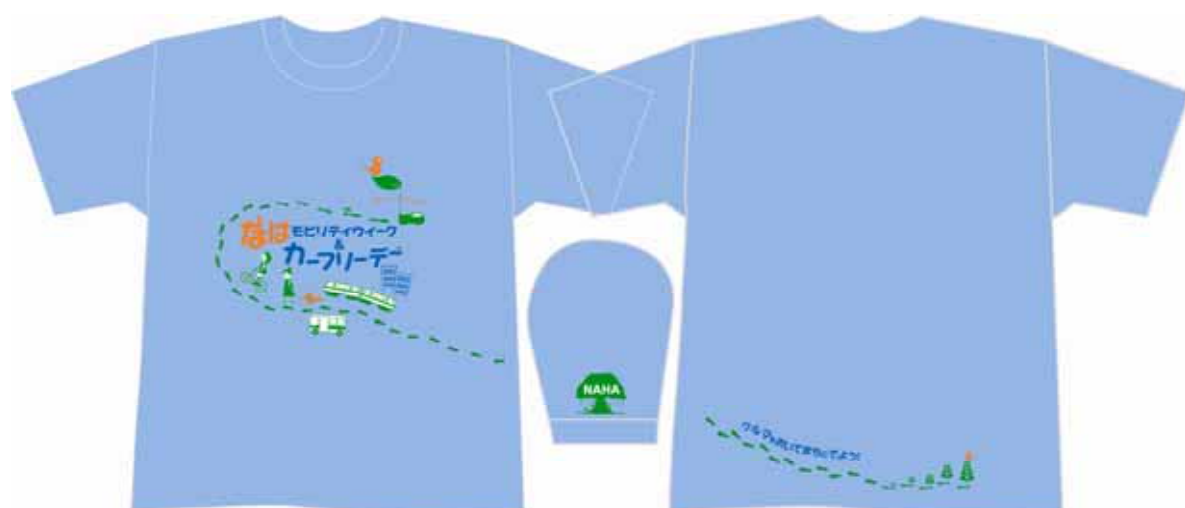
Tシャツはベージュと水色の2色で大人用XS~XXL(1枚¥1,800-)、子供用90~130(1枚¥1,500-)を作成しました。



表

ベージュ

裏



表

水色

裏



## ⑨ 終わりに

那覇市では今年で4回目の取り組みとなりましたが、今年は特にモビリティウィーク&カーフリーデーを「知ってもらうこと」に力を注いだことから、カーフリー宣言者の目標1000人を達成するなど、例年以上に多くの市民にこのイベントを知ってもらう機会となりました。

またポスターコンクールやセグウェイ試乗会、なはまちなかウォーク、日傘の無料貸出・パレードといった「参加してもらう」イベントを通して、参加者に日頃の生活を見直し、交通と環境について考える良い機会になったと思います。来年はさらなる充実と規模拡大に取り組むとともに、クルマに頼り過ぎない生活に実際に取り組んでもらうために「行動してもらう」イベントを考えていきたいと思っています。

那覇市では今年度「那覇市公共交通総合連携計画」の策定を予定しています。この中で、LRTやBRTをイメージしたモデル性の高い基幹的公共交通の導入の段階的な導入計画を立てることとなっており、次年度、その試行運行の実施に向けて取り組んでいるところです。新しい交通の導入がより多くの市民の同意を得て、スムーズに実施に繋がるよう、また本市の目指す交通まちづくりの実現のため、意識改革の取り組みとして「なはモビリティウィーク&カーフリーデー」を今後益々充実し、発展させていきたいと思っています。